

光接触皮膚炎を防ぐために

監修：中東遠総合医療センター
 参与 兼 皮膚科・皮膚腫瘍科診療部長
 兼 アレルギー疾患研究センター長

戸倉 新樹 先生

患者さんへのご説明のお願い

ケトプロフェン外用剤を剥離後、貼ったところを日光(紫外線)にあてると**光接触皮膚炎**が発現することがあります。光接触皮膚炎は使用中・使用後の注意を守るにより防ぐことのできる副作用です。

右記の点について、患者さんへご説明をお願いいたします。

経皮鎮痛消炎剤
ケトプロフェンテープ

モーラステープ[®] 20mg

経皮鎮痛消炎剤
ケトプロフェンテープ

モーラステープ[®] L 40mg

経皮鎮痛消炎剤
ケトプロフェンパップ

モーラスパップ[®] XR 120mg

経皮鎮痛消炎剤
ケトプロフェンパップ

モーラスパップ[®] 30mg

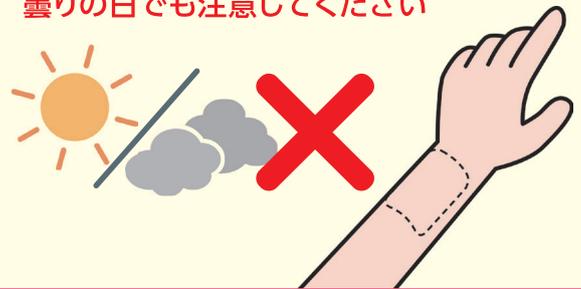
経皮鎮痛消炎剤
ケトプロフェンパップ

モーラスパップ[®] 60mg



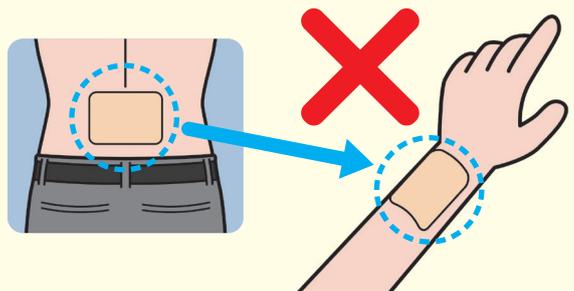
剥離後も少なくとも **4週間** は貼ったところを日光(紫外線)にあてないでください

曇りの日でも注意してください



医師から指示されたところ以外に貼らないでください

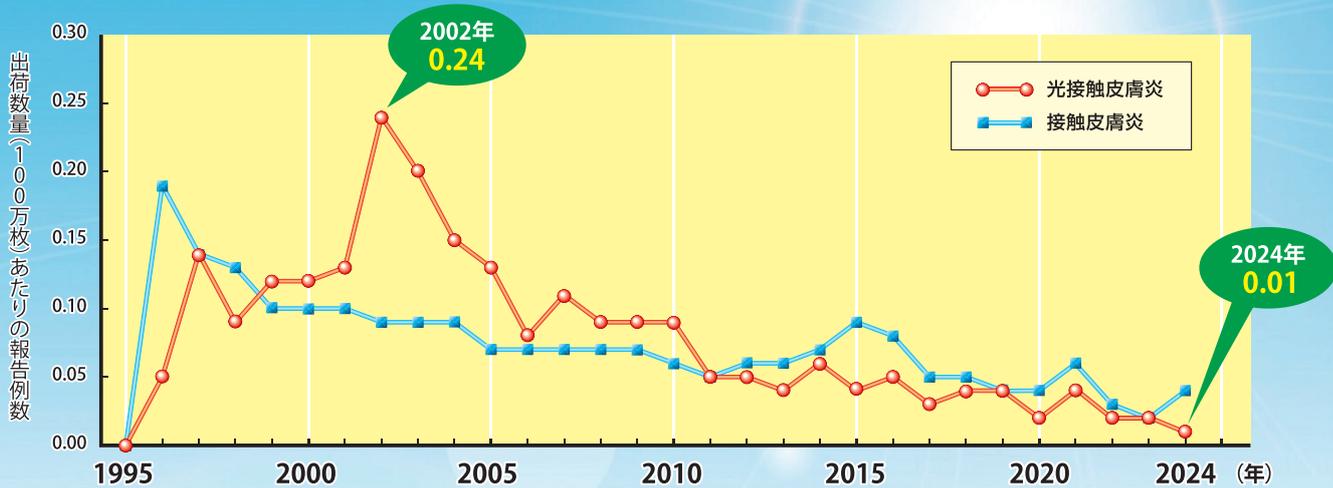
(例) 指示されたのは腰なのに、手首に貼る



このお薬を他の人に譲ってはいけません



このお薬を他の人が使うと、以下の可能性があります
 ①思わぬ副作用がでる ②期待した効果を発揮しない



川島 佳奈子、末永 裕、吉武 和久、目野 龍也、上出 良一、南 秀尚：
ケトプロフェン外用剤による光接触皮膚炎-安全対策と報告例数の推移-
Prog Med 2019; 39(2) : 189-197. を元に作成 (2024年までのデータに更新)



よく頂く ご質問について

ケトプロフェン外用剤による光接触皮膚炎に関するご質問とその回答を、
監修医の戸倉新樹先生に解説していただきます。
患者さんからご質問があった場合の参考にしてください。

Q1 光接触皮膚炎を防ぐためには、どうすればよいですか？

A1: ケトプロフェン外用剤を剥離後、貼ったところを日光(紫外線)にあてないでください。

特に紫外線が強くなる6月頃～9月頃は貼ったところに日光(紫外線)をあてないように、衣服やサポーター等で覆うことが大切です。一般的に、衣服は暗い色・濃い色ほど紫外線カットに効果的と言われています。また、処方されたケトプロフェン外用剤を他の方に譲り渡し、光接触皮膚炎が発現した症例が報告されています。他の方に譲り渡さないよう、指導箋などを使用し、患者さんにご説明いただくことも大切です。

Q2 光接触皮膚炎になってしまった場合、どうすればよいですか？

A2 : 原因薬剤の投与を中止し、医療機関の下で適切な治療を受けてください。

局所の皮膚症状の場合は強めのステロイド外用剤で治療し、全身に症状がでている場合は短期間ステロイド内服剤で治療します。色素沈着が残った場合は、ビタミンC(内服、外用)、ハイドロキノン(外用)、トレチノイン(外用)等で治療します。回復に至るまで個人差はありますが、治らない副作用ではありません。

Q3 光接触皮膚炎と接触皮膚炎を見分けることは可能ですか？

**A3 : 皮膚症状をみただけで光接触皮膚炎か接触皮膚炎か見分けることは難しいので、問診時に露光の有無について確認してください。
なお、確定診断には皮膚科専門医による光パッチテストが必要です。**

指導箋のご紹介

弊社では、光接触皮膚炎を防ぐために、患者さんへの服薬指導の一助となるよう患者指導箋等をご用意しております。ご希望の方は、弊社医薬情報担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。また、弊社ホームページからも取り寄せることができます。

祐徳薬品工業株式会社 HP



患者指導箋



おくすり手帳用付箋

お問い合わせ先

祐徳薬品工業株式会社 学術研修部

〒812-0039 福岡市博多区冷泉町5番32号 オーシャン博多ビル

TEL: 092-271-7702